

令和2年度厚生労働科学研究費補助金（女性の健康の包括的支援政策研究事業）

分担研究報告書

保健・医療・教育機関・産業等における女性の健康支援のための研究

日本版プレコンセプションケア ポリシーブリーフの作成

研究分担者 前田恵理 秋田大学大学院医学系研究科 衛生学・公衆衛生学講座 准教授

研究分担者 荒田尚子 国立成育医療研究センター 母性内科診療部長

**研究要旨：**日本は世界で最も安全なレベルの周産期医療体制を提供している一方で、晩産化に伴う不妊症の増加やリプロダクティブヘルス全般に対する低い関心、若い女性の痩せと低出生体重児の割合の高止まり等、特有の多くの問題も抱えている。わが国の実情にあったプレコンセプションケアを普及するため、昨年度は日本版プレコンセプションケアの定義を「前思春期から生殖可能年齢にあるすべての人々の身体的、心理的および社会的な健康の保持および増進」として、目標を「現在から将来にわたる自らの健康のみならず次世代の健康の保持及び増進を図り、国民全体の健康を向上すること」として提案した。今年度は、社会全体を巻き込み、プレコンセプションケアを普及させていくためにポリシーブリーフの作成を行った。わが国のプレコンセプションケアの現状と課題について9項目に分けて整理した上で、プレコンセプションケアの普及で期待できる効果として、周産期医療および母子保健の向上、労働生産性の向上、生活習慣病の予防と健康寿命の延伸、格差是正など広い観点からの記載を行った。プレコンセプションケアを推進するため、教育、保健、医療、職域の各領域へ提案するとともに、社会全体で関係者が一体となった推進のため、「健やか親子21」へプレコンセプションケアの観点からの目標を追加することについても提案を行った。今後は本ポリシーブリーフを活用して、プレコンセプションケア推進の輪を広げていく。

#### A. 研究目的

わが国は諸外国と比較し、2017年の妊産婦死亡率は出産10万対で3.4人、周産期死亡率は出産千対で3.5人と世界で最も安全なレベルの周産期医療を提供している一方で、日本特有の多くの問題を抱えている。出生数約95万人に対し人工妊娠中絶件数は16万件と多い一方で、晩産化に伴う不妊治療数も増加している。また、性と生殖に関する教育の国際標準への未到達に

も見られるとおり、リプロダクティブヘルス全般に対する低い関心と低ヘルスリテラシーも指摘されている。若い女性の低栄養や2割に上る「やせ」、それに伴うと考えられる低出生体重児数の割合の高止まりは次世代に引き継がれる健康問題として懸念される。

このような諸問題を踏まえると、わが国の実情にあったプレコンセプションケアの導入が不可欠である。そこで昨年度、本研

究班では「日本版プレコンセプションケア」の定義および目標の提案を行い、定義を「前思春期から生殖可能年齢にあるすべての人々の身体的、心理的および社会的な健康の保持および増進」、目標を「現在から将来にわたる自らの健康のみならず次世代の健康の保持及び増進を図り、国民全体の健康を向上すること」とした。

今年度は、社会全体を巻き込みながらプレコンセプションケアを普及する目的で、エビデンスや課題をわかりやすく提示し、政策提案を行うポリシーブリーフを作成した。

## B. 研究方法 および C. 研究結果

2019年10月に国立成育医療研究センタープレコンセプションケアセンターと共催した『プレコンセプションケアを考える会』の議論、文献レビュー、および当研究班内での議論を踏まえて作成したポリシーブリーフは別添資料のとおりである。

はじめにプレコンセプションケアの概要を示すと共に『プレコンセプションケアを考える会』で提起されたわが国の課題について、

- (1) 計画妊娠
  - (2) リプロダクティブライフプラン
  - (3) やせと肥満
  - (4) 低栄養と葉酸不足
  - (5) 喫煙・飲酒・薬物
  - (6) リプロダクティブヘルス全般に対するリテラシー
  - (7) 慢性疾患
  - (8) 感染症
  - (9) 職業性および環境中有害物質曝露
- の9項目に分け、文献に基づく現状と課題

の整理を行った。

次に、プレコンセプションケアの普及で期待できる効果として、米国や世界保健機関が示してきた母子保健指標の改善、生活習慣病予防、健康格差の縮小等に加え、労働生産性とQOLの向上や健康寿命の延伸等、行政や職域の関心につながる効果も明記することとした。

最後に、プレコンセプションケアを推進するための提案として、

- (1) 教育：わが国の性と生殖に関する学校教育を国際標準へ
- (2) 保健：地域ぐるみで切れ目ない保健介入を
- (3) 医療：全診療科でプレコンセプションケアの概念を共有し、産婦人科は地域のリプロダクティブヘルス推進拠点に
- (4) 職域：プレコンセプションケアで生産性向上を

として、関係する4領域への提案を行った。(5) 社会全体で若者と将来の子どもたちの健康を温かく支援しようとして、関係者が一体となってプレコンセプションケアを推進するために「健やか親子21」にプレコンセプションケアの観点からの目標の追加することを提案した。

## D. 考察

日本版プレコンセプションケアでは、近年の多様なライフスタイルを踏まえて、子どもを持つ意思に関わらず、全ての若者の健康の保持増進をプレコンセプションケアと定義し、国民全体の健康の向上を目標としている。本ポリシーブリーフでは、将来の子どもたちの健康や母子保健の向上のみならず、本人の健康増進についても重視した

記載を心がけた。産婦人科、小児科、母子保健関係者のみならず、全ての診療科の医療従事者や産業保健・地域保健関係者に関心を持っていただき、一体となって推進していきたい。

本ポリシーブリーフは専門家の助言と文献レビューに基づき作成したが、プレコンセプションケア領域では観察研究は多い一方、介入研究は世界的にも未だ限られているのが現状である。今後、わが国からもプレコンセプションケアのエビデンス創出を行っていく必要があり、ポリシーブリーフも定期的に更新して行く予定である。

#### **E. 結論**

社会全体を巻き込み、プレコンセプションケアを普及させていくためにポリシーブリーフを作成した。わが国のプレコンセプションケアの現状と課題について9項目に分けて整理した上で、プレコンセプションケアの普及で期待できることとして、周産

期医療と母子保健の向上に加えて労働生産性の向上、生活習慣病の予防と健康寿命の延伸、格差是正など広い観点からの記載を行った。プレコンセプションケアを推進するために教育、保健、医療、職域の各領域で検討されうる方策についても提案し、社会全体で推進するために「健やか親子21」へ目標を追加することについても提案を行った。プレコンセプションケア推進の輪を広げるため、本ポリシーブリーフを活用していく。

#### **G. 研究発表**

前田 恵理. 世界のプレコンセプションケアの動向. 産科と婦人科 87(8) 881-886. 2020年8月

#### **H. 知的財産権の出願・登録状況**

なし